訃　　報

正田　宏二　氏　　令和４年７月１０日　　享年９２

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。
ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

正田さん　ご苦労様でした

羽佐田　恭正

正田宏二さんが令和４年７月 10 日突如お亡くなりになりました。

ご自分の会社の、社長、会長を務められ、相談役になられてからは、週２日会社に出られ、週３日は身体の治療、お宅ではピアノの演奏や、お茶を楽しまれていられました。

昭和４年(1929)にお生まれになり、学習院初等科、中等科、高等科と進まれて、東京大学を受験、見事に一発で合格されました。正田醤油社長の伯父の家に子どもが無かったため、早くから跡継ぎに決められていた模様で大学も農学部を選ばれました。

戦前の学習院高等科には陸上部や野球部がありましたが、籠球部はありませんでした。戦後に部が出来、入部されました。部は関東高校秋季リーグに参加しましたが、最初の年はバスケットの歴史が古い一高や成蹊、成城、武蔵に勝つことが出来ませんでした。翌年から勝ったり負けたりと少しずつ力をつけて行き、籠球部の基礎を作られました。部で発行された第１号の【部報】の中に「実力のないもの」という題でインターハイ予選、対戦した武蔵高に惜敗した時の状況を書かれています。

東大のバスケットは関東大学連盟の１部で活躍していましたが、段々と１部の最下位になり、２部で力をつけて来た明治大学と入れ替え戦を戦い、昭和 27 年(1952)に入れ替え戦で敗れました。正田さんは１部での最後の戦いをされました。

当振興会へは東大の選手時代の監督であった池田博氏に勧められて入会されました。

大学のバスケット部で活動される一方、後輩の中等科や高等科の指導をされ、昭和 31 年(1956)から 33 年まで監督を務められ、合宿練習にも参加されました。

大学卒業後、予定された正田醤油に入社され、本社の館林に住まわれました。入社早々から、夜勤や、休日出勤も多く積極的に業務改善に取り組まれました。２年後在籍のまま１年間東京大学応用微生物研究所に留学され研究を極められました。

取締役、専務取締役を経て昭和 38 年(1963)には代表取締役に就任、社業を発展されました。

その間、高等科と東京高等師範附属高(現筑波大学附属高)と毎年６月開催のバスケットの試合には随時館林から応援に駆け付けられました。

その後、ＯＢ会の会長に就任され、平成６年(1994)にはメンバーコースの桃里カントリー倶楽部で後輩のＯＢ・ＯＧを集めてゴルフ会を開催。平成８年(1996)11 月に創部 50 周年の記念式典を開催、在学中にバスケットのクラブチームに所属された常陸宮正仁殿下と華子妃殿下をお揃いでお迎えしました。

社業では、会社の工場の生産力を拡大し、新工場を建設、営業所や関係会社も大幅に増やされました。

会社の地元では、館林商工会議所会頭や全国醤油工業組合連合会会長、群馬県公安委員長を委嘱されています。数々の要職に就かれる一方、群馬県バスケットボール協会会長にも就かれました。平成 12 年(2000)に勲三等瑞宝章受章、それに先立ち昭和 61 年(1986)には藍綬褒章を受章されています。

最後に、正田家では【青天のへきれき】とされていますが、正田さんのいとこの子どもの美智子様の婚約発表があった時のことです。父君は聞かされていたようですが、ご本人は発表の当日に報告を受けて驚いたと綴っています。７月の正田さん葬儀の際には上皇、上皇后陛下より供花を頂きました。　　合掌

写真はご家族により提供　　東大時代バスケ部の正田さん（21 番）